

## 第5回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 平成28年11月18日(金) 午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 千葉県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>  
 県農林水産部水産局漁業資源課長 根本 均  
 県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 鈴木 広之  
 東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史  
 <その他>  
 県関係職員12名

- (1) 沿岸の重要水産資源に係る資源評価について
  - ①平成28年度千葉県資源評価票(案)について
  - ②資源評価対象候補種の選定基準の考え方について
- (2) その他

### 5 検討事項の概要及び検討の結果

第5回の会議では平成28年度千葉県資源評価票(案)及び資源評価対象種候補種の選定基準の考え方について検討した。

#### (1) 沿岸の重要水産資源に係る資源評価について

##### ①平成28年度千葉県資源評価票(案)について

今回、キンメダイ、コノシロ、スズキ、ヒラメ、マコガレイ、マアナゴ、マダイ、クロアワビ、メガイアワビ、サザエ、アサリ、チョウセンハマグリ及びイセエビの計13魚種の資源評価(案)について検討し、構成員等の意見を踏まえて必要な修正等を行うこととした。詳細は以下のとおり。

##### <キンメダイ>

- ・構成員からの意見により、今後国の資源評価において漁場毎に関する評価結果が出た場合、県の資源評価結果に反映させることとした。
- ・事務局から操業時間等の取組を評価結果に反映出来ないかという漁業者からの意見について説明があり、今後可能かどうか検討することとした。
- ・構成員から漁業者が行っている小型魚の再放流について、資源管理上、有効な取組といえるのかという質問があり、担当者から有効である旨の回答があった。
- ・キンメダイの資源評価結果については、案のとおりとし、魚種の説明に生息水深や体重等の情報等を追加修正することとなった。

#### <コノシロ>

- ・コノシロの資源評価結果については、概ね案のとおりとし、構成員から意見のあった資源動向を再確認し、必要に応じて修正することとなった。

⇒後日の再確認の結果、資源動向を修正する必要が無いことで構成員の了解を得た。

#### <スズキ>

- ・スズキの資源評価については、評価結果を案のとおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

#### <ヒラメ>

- ・構成員から千葉県資源状況（水準及び動向等）と東北（宮城県や福島県）の資源状況が同じである旨の情報提供があった。
- ・ヒラメの資源評価結果については、案のとおりとし、構成員から意見のあった魚種の説明に体重等の情報を追加する等の修正をすることとなった。

#### <マコガレイ>

- ・構成員からマコガレイの放流効果について質問があり、担当者から回収率は1%程度で他県と同様であり、尾びれ欠損の放流指標の見直し検討している旨の回答があった。
- ・マコガレイの資源評価結果については、案のとおりとし、一部字句等の修正をすることとなった。

#### <マアナゴ>

- ・マアナゴの資源評価結果については、案のとおりとし、評価記号の誤りを修正することとなった。

#### <マダイ>

- ・マダイの資源評価については、2015年に3歳魚の漁獲が多かった影響から、推定資源量では過去の資源量も大幅に増加することとなり、的確に資源状況の評価することが難しいことため、漁獲量で資源評価を行う旨の説明が担当者からあった。
- ・構成員からもマダイについては、年齢別漁獲量から他海域からの移動があったと考えられ、資源評価を推定資源量ではなく、漁獲量で判断するのは妥当である旨の意見があった。
- ・マダイの資源評価結果については、構成員の意見も踏まえ案のとおりとすることと

なった。

#### <クロアワビ>

- ・構成員から資源評価結果について、評価期間内で相対的に資源水準が高位ではあるが、天然において再生産が十分行われるほどではない等の意見があり、結果の表現について再検討することとなった。

⇒後日の再検討の結果、資源評価結果に指摘のあった点について注釈を付けるということで、構成員の了解を得た。

#### <メガイアワビ>

- ・メガイアワビの資源評価については、特に意見等無く案のとおりとすることとなった。

#### <サザエ>

- ・サザエの資源評価については、特に意見等無く案のとおりとすることとなった。

#### <アサリ>

- ・構成員から放流数を示して資源を支えていたか確認する必要がある旨の意見があり、放流数についても追記することとした。
- ・アサリの資源評価については、漁獲出来ない稚貝も含まれており、結果として漁業者感覚とのズレが考えられることから、表現等を再検討することとなった。また、一部の字句を修正することとなった。

⇒後日の再検討の結果、漁獲サイズ以上の資源量から評価を行うこととし、構成員の了解を得た。

#### <チョウセンハマグリ>

- ・構成員からチョウセンハマグリの2009年級群以降の資源の加入状況等について質問があり、担当者から、2012年に発生したものは局所的な可能性が高く、資源は全体として減っている感覚である旨の説明があった。
- ・チョウセンハマグリの資源評価については、特に意見等無く案のとおりとなった。

#### <イセエビ>

- ・イセエビの資源評価について、CPUEで評価を検討したところ過去データが不十分であったため漁獲実態とは異なる結果となり、漁獲量で評価を検討した旨の説明が担当者からあったが、構成員からの意見により改めてCPUEの過去データを集計、再

確認した上で再検討することとした。

⇒後日の再検討の結果、CPUEの過去データを追加した上で評価を行い、構成員の了解を得た。

## ②資源評価対象候補種の選定基準の考え方について

- ・平成24～26年の魚種別生産量及び生産金額の順位等から比較検討から、概ね主要魚種についてカバーされているが、一方で県全体の漁業状況は厳しく、新たな対象種や努力して増やせる魚種が無いか引き続き検討することとなった。

## (2) その他

事務局から今後のスケジュールを説明し、意見等は特に無かった。